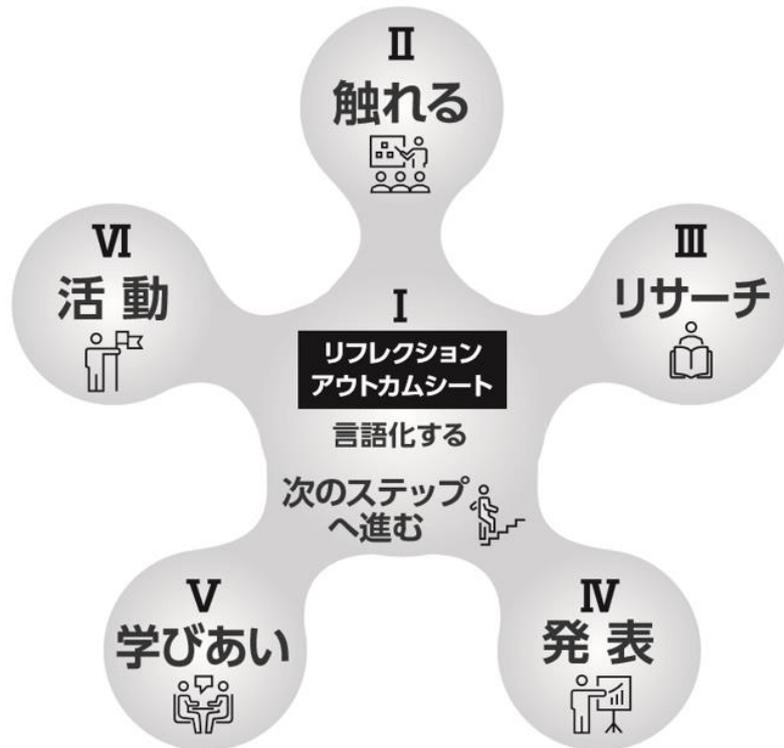


2019 年度 課題研究

評価規準・観点と評価基準



自由研究・SSH リサーチ科学・SSH リサーチ脳科学

物理・化学・生物・サンゴ・地学天文・情報・数学

研究テーマ：

年 組 番号 氏名：

自己評価

触れる	リサーチ	発表	学びあい	活動	合計
/7	/7	/7	/7	/7	/35

規 準：触れる

日付			総合
観点 1	①	①	

※年に2回、形式的に評価します。

※「触れる」の観点は1つです。

観点1 発表、講演、研修、書籍、論文などから情報を得ようとしている。

①	6～7	発表会、講演会、研修会などに参加し、それについてまとめたものを5つ以上提出している。
	4～5	発表会、講演会、研修会などに参加し、それについてまとめたものを3つ以上提出している。
	2～3	発表会、講演会、研修会などに参加し、それについてまとめたものを1つ以上提出している。
	0～1	発表会、講演会、研修会などにまったく参加していない。

規 準：リサーチ

日付						総合
観点 1	①・②	①・②	①・②	①・②	①・②	
観点 2	①	①	①	①	①	
観点 3	①・②	①・②	①・②	①・②	①・②	
観点 4	①・②・③	①・②・③	①・②・③	①・②・③	①・②・③	
						平均

※年に数回、該当する観点を形式的に評価し、最終的に4つの観点を平均します。

※最終的に①～③すべてを評価するわけではありません。

※各観点の①～③のうち該当するルーブリックを選択して評価を行います。

観点1 自身の研究に対する適切な調査・実験ができている。

①	6～7	研究課題に対して論文や書籍など関連性のある適切な資料を選択できている。	推・明
	4～5	研究課題に対して現状で関連していそうな論文や書籍を調べ、参考にしている。	
	2～3	研究課題に対して、関連がありそうな論文や書籍を調べている。	
	1	参考資料を何も選択できていない。	
②	6～7	関連研究・先行研究の知識が豊富で、それらの根拠と結論を踏まえ資料から必要な情報を取捨選択している。	推・明
	4～5	関連研究・先行研究の知識があり、それらの根拠か結論を踏まえて資料を活用している。	
	2～3	関連研究・先行研究の知識があり、それらを活用している。	
	1	関連研究・先行研究の知識がほとんどない。	

観点2 研究方法に優れた工夫がなされている。

①	6～7	統計的な分析を行うなど、結果の裏付けが明確になされた研究方法となっている。	土
	4～5	統計的な分析を行うなど、結果の裏付けができるよう意識した研究方法になっている。	
	2～3	分析は行っているが、結果の裏付けができるよう意識した研究方法になっていない。	

観点3 考察が非常に優れている。

①	6～7	筋の通った議論が研究内容から展開され、結論は分析・証明の結果を反映している。	推
	4～5	筋の通った議論が研究内容から展開され、結論は分析・証明の結果の一部を反映している。	
	2～3	筋の通った議論が研究内容から展開されているが、分析・証明の結果を反映していない。	
②	6～7	一貫した論理展開がわかりやすくまとめられており、矛盾が見られない。	推
	4～5	論理展開はわかりやすくまとめられている。	
	2～3	論理展開がわかりやすくまとめられているが、一部に矛盾が見られる。	

観点4 実証が非常に優れている。

①	6～7	データの処理・分析が的確で、研究課題にしっかりと焦点が合っている。	推・明
	4～5	データの処理・分析ができており、研究課題に沿った内容となっている。	
	2～3	データの処理・分析は行っているが、研究課題に焦点が合っていない。	
②	6～7	結論を述べるにあたってデータ数、実験回数、証明方法が適切である。	土
	4～5	結論を述べるにあたってデータ数、実験回数、証明方法が一部足りていないところがある。	
	2～3	結論を述べるにあたってデータ数、実験回数、証明方法が十分でない。	
③	6～7	実験・分析・証明等の結果を理解したうえで、次の実験・分析・証明等に効果的に活用している。	推
	4～5	実験・分析・証明等の結果を理解したうえで、次の実験・分析・証明等に活用しようとしている。	
	2～3	実験・分析・証明等の結果を理解している。	

規 準 : 発 表

日付						総合
観点 1	①・②・③	①・②・③	①・②・③	①・②・③	①・②・③	
観点 2	①	①	①	①	①	
					平均	

※年に数回、該当する観点を形成的に評価し、最終的に2つの観点を平均します。

※最終的に①～③すべてを評価するわけではありません。

※各観点の①～③のうち該当するループリックを選択して評価を行います。

観点1 優れた発表である。

①	6～7	原稿を見ないなど、聞き手に伝わるよう配慮した発表となっている。	明
	4～5	聞き手に伝わりやすい発表となっている。	
	2～3	聞き手に伝わりにくい発表である。	
②	6～7	研究テーマの内容に沿った発表となっている。	明
	4～5	研究テーマの内容に概ね沿った発表となっている。	
	2～3	研究テーマの内容に沿った発表となっていない。	
③	6～7	研究課題の目的が明白で、主張が一貫している。	明
	4～5	研究課題の目的が明白であるが、主張が一貫していない部分がある。	
	2～3	研究課題の目的が明白であるが、主張が一貫していない。	

観点2 説明するスキルが身についている。

①	6～7	質問に対して的確な返答ができている。	明
	4～5	質問に対して返答はできているが不十分な部分がある。	
	2～3	質問に対して返答はしたが間違っている。	

規 準：学 び あ い

日付						総合
観点 1	①	①	①	①	①	
平均						

※年に数回、形成的に評価します。

※「学びあい」の観点は1つです。

観点1 質問するスキルが身についている。

①	6～7	他校の発表に対し新しい考え、発表では触れなかった観点を相手から引き出すことができている。
	4～5	他校の発表に対して発表内容から疑問に思ったことを質問している。
	2～3	他校の発表に対して的外れな質問をしている。

規 準：活 動

日付						総合
観点 1	①	①	①	①	①	

※年に数回、形成的に評価します。

※「活動」の観点は1つです。

観点1 社会とのつながりを意識した活動となっている。

①	6～7	分野に関連する社会(高等部以外の場所)を意識した具体的な活動を行っており、新奇性のあることに挑戦して開拓し、社会との共創をはかった内容である。
	4～5	分野に関連する社会(高等部以外の場所)を意識した具体的な活動を行っており、新奇性のあることに挑戦し、社会との共創をはかろうとした内容である。
	2～3	分野に関連する社会を意識した活動を行い、新奇性や社会との共創を意識した内容である。

「具体的な活動」の例

例 1：専門家に相談する、結果を見せる、などしてその内容を研究にフィードバックする。

例 2：論文コンテストや学会で発表するなどして、評価をフィードバックしてもらう。

例 3：社会問題が起こっている現場に訪れて、そこで学んだことを研究にフィードバックする。